

オルガノン要約 § 71～§ 82

§ 71 人間の病気は、「ある種の症状が集まったもの」以外にはありえない。

ホメオパシーによる治療行為は三つに限られる。(§ 3)

- 1) 治療のために必要なものを探求すること。§ 72～104
- 2) レメディのエネルギーを探求すること。§ 105～148
- 3) レメディの適切な適用の仕方。§ 149～

§ 72 人間の病気には二つある。

- 1) 急性病：病的進行が速く、適度に短い期間で病気の進行を終える。
 - 2) 慢性病：初期の段階では目立たず、少しずつ健康を蝕んでいく。
- 生命エネルギーは病気に対して不完全で不適切で無駄な抵抗を企てるだけで、自分のかかった病気を独力で消滅させることはできない。最終的に身体が破壊されるまで異常な状態にする。この病気は慢性マヤズムを通じてダイナミックな感染によって発生する。

§ 73 急性病

急性病には三つある。

- 1) 有害な要因にさらされたことがきっかけとなって個別的に人間を襲うもの。たいていそれは潜伏していた **Psora** (乾癬) が表面に湧きあがったものに過ぎず、症状も激しいものでなく、すぐに除去されるならば、**Psora** は自ずと休眠状態に戻る。栄養過不足・外傷・冷え・激情など。

- 2) 気象や大地の影響力や有害因子をきっかけとするもの

- a) 散発性：同時にあちこちで複数の人間の感受性に合わせて襲いかかる。
- b) 流行性：a とほとんど同じで、同じ原因から多くの人々に襲いかかり極めて似た症状を見せる。
- c) 感染性：大勢の人々がいる集団の間に蔓延し、感染する。

こうした病気は発生源が同じだから、病気になった人たちの病状が進行する様子は同じである。放置すると死に至るか、健康を回復する。戦争・洪水・飢きんなどが、こうした病気の誘因や発生源になる。

- 3) 流行性・感染性の急性病には、同じ仕方で繰り返し表れる特有の急性マヤズムによって起こるものがある。以下 2 種類・・・

- a) 生涯でたった一度だけ人を襲うもの (天然痘・麻疹・百日咳・おたふくなど)
- b) 何度も繰り返し発症するもの (レバント病、黄熱病、アジアコレラなど)

(注) ホメオパスの治療は、病名で判断せず、病気の特性に従う。

§ 74 医原病

アロパシー療法によって作用が激しく英雄のように戦う薬を増やししながら大量に投与され続けることによって起こる。これも慢性病のひとつと見なさなければならない。

アロパシー薬に対して生命エネルギーは、生命を維持するために身体の体制を変えなければならない。そうして身体の内側と外側のいたるところに欠陥が生じる。部分的に膨張・収縮・弛緩・硬化・破壊などの奇形化対応によって生命が破壊されることから守っている。

(注) 瀉血・アロパシー批判。

§ 75 アロパシーによる慢性病は最も治癒が困難である。それが進行すれば最適なレメディを見つけることも作ることもできない。

§ 76 本来、ホメオパシーは、アロパシーによる病気ではなく自然の病気から人間を救うものである。

長年にわたるアロパシー治療がなされず、他の治療法がなされたなら、背後に存在する慢性マヤズムに対して生命エネルギーがそうした身体の状態を何年もかけながら回復させただろう。

§ 77 擬似慢性病／Maintaining cause :

自分の意志で避けることのできる有害因子による不健康な状態は、慢性マヤズムが潜んでいなければ生活様式を改善するだけで自然に消える。これは慢性病とは言えない。

§ 78 慢性マヤズム :

真の慢性的な病気とは、”慢性マヤズム”から生じる。

これを放置したり、それに対応するレメディを使わなければいつまでも悪化の一途をたどり、心身両面から最高の養生をしても悪化は進行し、死ぬまで人を苦しめる。

本当の慢性病は人類を苦しめる最大無限の拷問である。どんなに元気で頑強で正しい日常生活を営んでもこの病気を根絶することはできないから。

(注) 励起原因／Exiting cause＝厄介な境遇・環境＋不適切な医学療法などにより慢性病は引き起こされ、進行を速める。

§ 79 慢性マヤズムの病気

梅毒/SYPHILIS : 不治の病として死とともに消えると思われてきた。

淋病/SYCOSIS : これも不治の病だが、皮膚の腫瘍を破壊するだけで治癒したと考えられてきた。

§ 80 乾癬マヤズム (ソーラ又はソーラ/PSORA)

梅毒、淋病よりも計り知れないほど蔓延し、はるかに重要なマヤズム。

ソーラは身体全体が完全に内的に感染した後になって初めて特有な発疹が出る。

ソーラはほとんど全ての数え切れない病気を生み出す真の根本原因である。

(注) ソーラを探求し、抗ソーラのレメディを見出すのに 12 年費やした。

抗ソーラレメディ (ソーラから発生した慢性病に対する特殊なレメディ) を適用できれば、完全な治癒を達成できる。

§ 81 この感染症 (ソーラ) は数百世代にわたり少しずつ受け継がれ、広範囲に無数の病気の形をとって蔓延した。こうして生み出されたものには別々の病名がつけられた。

(注 1) ソーラを慢性病に変化させる要因：

A) 居住地の気候や特有の風土。

B) 幼少期の常軌を逸した心身の教育。おろそかにされたり歪められたり、やりすぎた心身の訓練。

C) 仕事や生活環境、食事制限、情念、風習、習慣上の心身の乱用。

(注 2)

異なった病気に対して、通常医学ではやたらに曖昧な名前をつけて画一的に理解し、画一的な治療をしている。つまり本質的に異なる病気に対して同じ治療をして来た。

いかなる流行病もかつて存在していたものではなく、それぞれ本質的に異なったものとして治療しなければならない。よって真の治療家は、こうした無益で乱用された病名のいかなる影響も受けてはならない。

真の治療家は病名ではなく、患者一人ひとりの固有の徴候の余すところのない総体全体にしたがって診断し治療しなければならない。それは正確でなければならず、憶測で決めてはならない。病気の中に変化のない固定的な病気は存在しない。

§ 82 ホメオパシーはソーラに対して治療すべき多数の病気のもつ本質に近づいた。

しかしこれからも慢性病の診察可能な症状とその特性を注意深く理解していかなければならない。

真の治療はそれぞれの症例を厳密に特有の処置 (個別化) をすることから始まる。

急性病の場合は、おのずからほとんど全ての情報が提示される。

慢性病の場合は、症状を見つけ出すことさえ困難である。